

国際ロータリー第2800地区

鶴岡ロータリークラブ

例会日：毎週火曜日 午後 12:30～1:30

例会場：鶴岡市錦町 東京第一ホテル鶴岡

事務局：鶴岡市馬場町11-63(産業会館3F) TEL 0235-28-3375

例会会報

第2367回

平成19年6月19日(火) 晴れ(本年度第46回)

会長報告

副会長 樋渡 美智子

この一年のなかで

この一年、副会長の席に座らせて頂きましたが、女性管理職として、まだ初期の頃のようなことを経験しましたのでその中から。

「先生、ロータリーは格調高く」とかつての名幹事さん加藤吉郎さんからご指導を受けました。「全てのロータリーは、男性および女性の両方の会員をもつよう奨励されている」と条文化されてから何年になったのでしょうか。

あるロータリー周年行事の祝賀会の席。当該クラブの担当者が私の席に来て、開口一番「今日はだんなさんのかわりですか」と。「いいえ」と名刺を差し上げると、次に一言、「年金暮らしですか」。「どうして、年金暮らしと分かったのですか」「職業が書いてないので」すっかり年金暮らしを忘れていた私。これで、ロータリアンで良かったのか。しかも、女性の副会長、やがては会長。吉郎さんの言われる格調は何もない。それよりも、鶴岡クラブの皆さんの格も下げてしまうようで複雑な心境でした。

また、ある時のロータリー周年行事の受付で。「一般の方はこちらです。」と和服を着たご婦人の上品な声。その声を無視し、一般用と2、3メートル離れていた会員用の受付の席に向かった。再び「一般の方はあちらです。」会場から出て待って下さっていた越智さんが迎えてくださったのでようやく心とむ。・・・よかった越智さんで。

女性管理職の登用も、庄内は先進的なものであり、ロータリーも内陸に比して理解されておりありがたいことだが、「女性が会員になることは反対」という言葉を聞くこともある。男女雇用機会均等法が大改正・施行されて22年になり、男女共同参画社会基本法が制定され12年。

しかし、全国で先駆的な取り組みをした北九州市でさえ5年前の調査によると、この基本法を知って

いると答えた男性は10.7%、女性はわずかに8.4%であるという。(山形県は22年度までに計画を完成する予定)

幸い私は比較的男女の格差のない職であったが、それでも今度きた女の教頭の顔を見に来る住民。入り口の戸をあければなしでの校長と教頭の打ち合わせ。慣例になっていた二人の二次会はなし、など。

女性の役職比率も少しずつ上昇している。男女間の賃金格差も縮小し、徐々に改善されつつある。職場・家庭・社会とそれぞれの立場と役割で長い歴史を築いてきた今日。一朝一夕ではいかなないのは当然であろう。今後ともよろしくお願いします。

まえだ みつひこ

前田 光彦 氏のプロフィール

昭和8年8月14日大山生まれ

27年3月 鶴岡高校卒

31年3月 東京教育大学文学部卒

以後、田川地区高校勤務

平成6年3月 退職

現在 鶴岡市史編集委員

三川町史編集委員

江戸時代庄内浜の鯨

ゲストスピーチ

前田 光彦 氏

平成12年、立川町(現庄内町)科沢で、200万～300万年前の鯨の頭部や肋骨の化石が発見されました。現在では、これが庄内で最古の鯨の痕跡です。

近年、鯨の死体が庄内浜にうちあげられていますが、平成5～11年の7年間では13体、日本全体では年平均約100頭、アメリカでは約1,000頭の鯨が漂着しているそうです。

江戸時代の庄内浜の鯨についてみると、ほとんどが死鯨で、波で岸に寄せられたものを寄鯨、沖を流れていたものを猟師が船で曳き寄せたものを流鯨と区別してました。庄内浜では、捕鯨はありません。

この寄鯨・流鯨は、江戸時代を通して記録に残されている分をみますと、24頭を数えられます。実



際はこの数倍、或いは 10 倍を超えられます。

この中で唯一生きて鯨の例は、文化元年（1804）酒田にあがった鯨で、これは鳥海山の大噴火による津波で打ち上げられたもので、土煙をまきあげて暴れ、沢山の見物人が集まったと記録されています。

文政 5 年（1822）、湯野浜村に 12 尋三尺（約 18.9m）の鯨が浜に寄った時、数日陸揚げせずに、船で一人銭 10 文の料金を取って見物させ、船頭達は総額で金 13 両の収益をあげたと記録されています。そうすると、総数約 7,800 人が船で見物したことになります。

次に、嘉永 6 年（1853）小波渡村の流鯨についてみましょう。まず村では入札でもって鯨を売りに出します。この時、周辺七ヶ村から 55 人の入札者が集まり、堅苔沢村の喜右衛門に金 62 両と銀 31 匁 4 分 3 厘で落札し、村では規定通りその 10 分の 1 を運上金として藩に収めました。庄内藩では初め半金上納で、寛政頃から全額村分になっていましたが、文政 9 年（1826）から幕府の規定に従って寄鯨は 3 分の 1、流鯨は 10 分の 1 の運上となっていたのです。

さて残り 10 分の 9 の内、鯨陸揚げの人夫費、諸事務費、鯨供養費等を差引いて、その残金は村の各戸に平等分配されました。小波渡村の当時の戸数は 107 戸ですが、このうち村役人ら 4 戸が大儀料などを貰っているので辞退し、103 戸で分配して、1 戸当たり約金 1 歩 1 朱と銀 6 分 6 厘が臨時収入となっています。これを今の金額であらわすのは困難ですが、大まかに金 1 両 15 万円としてみると、約 5 万 4 千円ぐらいとなります。鯨は、村にとっては大変な福をもたらすものでした。「世間長者気質」という本には「鯨一匹七浦潤う」とあります。しかし、現在は寄鯨はゴミ扱いで、平成 14 年鹿児島県大浦町では、鯨の投棄代に 60 万円かかったそうです。

さて、鯨の落札金は、今の約 1 千万円を超える金額ですが、当時鯨はどんな利用価値があったのでしょうか。鯨の各部分について見ますと、皮は搾油されて燈油、田の駆虫に利用され、粕は肥料にされます。肉は塩漬けにして食用、脂身からは蠟がとられてローソク、骨は粉にして肥料、鰭は塩漬けにして食用、内臓は塩抜きにして食用、その他肥料、採油、腱は綿打ちや弓の弦、髭は耳かき、扇の要、物差し（鯨尺）などの工芸品、歯鯨の場合、歯は根付けや印鑑などに利用されました。

鯨は、落札人により浜で売られますが、各部分を買取るために、農民、商人、職人らが浜に殺到し、高値で売り捌かれました。

漁村の人々は、この鯨への感謝と供養のため、寺

での供養の儀式を行うとともに、その碑を建立することもありました。宝暦 10 年（1760）小波渡村では骨塔婆を建て、寛政 9 年（1767）川北の十里塚村では鯨塔婆を建てています。

帰国のご挨拶

羽黒高校留学生 カトリーナ

みなさんこんにちは。去年の 9 月、チェコから日本に来ました。10 ヶ月たって帰る日が近づきました。とても楽しい留学生活ができました。日本に来た時本当に楽しかったです。鶴岡ロータリークラブのおかげで、いろいろ楽しい経験ができました。クリスマスパーティーやひな祭など、いろいろいっぱい経験させてもらって嬉しかったです。美しいおひな様をみて、日本の文化を感じることができました。大変お世話になりました。まことにありがとうございました。皆様ももし、時間がありましたら、チェコにいらっしゃって下さい。連絡して下さい。チェコにもロータリークラブがあります。私もチェコで日本語の勉強をがんばります。町の案内もしたいと思います。ありがとうございました。



委員会報告

出席委員会

委員長 迎田 健

本日の出席		前々回の出席	
会員数	46人	出席率	74.42%
出席数	25人	修正出席数	34人
出席率	58.14%	確定出席率	83.72%

●メイクアップされた方

足立 篤司君 若生 恒吉君 藤川 享胤君
秦 幸助君 樋渡美智子君 本間 昭吉君
加藤 功君 丸山 隆志君 嶺岸 禮三君
真島 吉也君 阿部 純次君 越智 茂昭君
佐藤 孝子君

●ビジター 後藤 正君（鶴岡南 RC）

●ゲスト ノラ・トーマス
カトリーナ
前田光彦氏



真島吉也君 鯨の話、興味深く聞かせて頂きました。

阿蘇司朗君 創業 80 周年に大勢の方から来て頂き有難うございました。

塚原初男君 クラブ協議会欠席のおわび。